

カナレットとヴェネツィアの輝き

Canaletto
and the Splendour of Venice

2024.10.12 | SAT — 12.28 | SAT



SOMPO美術館
Sompo Museum of Art

PRESS
RELEASE

18世紀、景観画ヴェドゥータの巨匠 日本初の展覧会

ヴェドゥータ(景観画)の巨匠カナレット(1697-1768)の全貌を紹介する日本で初めての展覧会です。スコットランド国立美術館など英国コレクションを中心に、油彩、素描、版画など約60点で構成します。カナレットによる緻密かつ壮麗なヴェネツィアの描写を通じ、18世紀の景観画というジャンルの成立過程をたどるとともに、その伝統を継承しヴェネツィアの新たなイメージを開拓していった19世紀の画家たちの作品もあわせてご紹介します。

展覧会のみどころ:

1. 日本初! ヴェドゥータの巨匠、カナレット展

18世紀イタリアでカナレットが確立した「ヴェドゥータ(景観画)」。本展はカナレットの画業を紹介するとともに、ヴェドゥータ成立の歴史と展開を本格的に取り上げる日本初の展覧会です。

2. 海、光、祝祭—カナレットでめぐるヴェネツィアへの旅

カナレットによるヴェドゥータは、グランド・ツアーでイタリアを訪れた英国の上流階級が旅の記念としてこぞって求めたいわば「名所絵」。精密な透視図法を用いて緻密に描かれた街並み、晴朗な空や輝く水面、そして共和国時代の栄華をしのばせる祝祭の光景など、カナレットが残した数々のヴェドゥータを通じて、現在も変わらぬ姿をとどめる世界遺産の街・ヴェネツィアを体感するようにご覧いただけます。

3. 描かれ続けるヴェネツィアの魅力

ホイッスラー、ブーダン、モネが描く「水の都」

カナレットの没後、ヴェネツィアはどのように描かれ続けてきたのでしょうか。スコットランド国立美術館をはじめとする英国内のコレクションに、日本国内からの出品を加えた総数約60点が集結する本展を通じて、絵画に描かれるヴェネツィアの姿の変遷をクロード・モネに至る20世紀初頭までたどります。



カナレット(ジョヴァンニ・アントニオ・カナル)
Canaletto (Giovanni Antonio Canal, 1697-1768)

1697年、劇場の舞台美術家を父にヴェネツィアに生まれる。1719年、オペラの舞台美術の仕事のため父に伴いローマへ赴き、そこでこの地の景観画家とも知り合ったと言われている。生地ヴェネツィアの陽光きらめく都市景観を鮮やかに描き出した景観画「ヴェドゥータ」で名を馳せ、とりわけ英国のパトロンに恵まれて英国人グランド・ツアー客に競って求められた。1746年からは英国に長期滞在し、現地の景観も描いている。1768年、ヴェネツィアで没した。

Chapter 1

カナレット以前のヴェネツィア

Venice before Canaletto

第1章では、カナレットに先立つ都市のイメージ、および18世紀当時のヴェネツィアを伝える作品をご紹介します。ヴェネツィアにおける都市を描く伝統自体は15世紀にまで遡り、物語画の背景や鳥瞰図として、現実の都市空間が遠近法を用いて地誌的に正確に再現されるようになった。しかし16世紀末以降、ヴェネツィアに都市景観を描く画家は育たず、北方からやってきた画家たちが描いたラグーナ(潟)の景観がのちのヴェドゥータ発展の土壌となった。一方、時代を代表する世紀最大の画家はジョヴァンニ・バッティスタ・ティエポロである。18世紀のヴェネツィアでは新興貴族らが競って邸館の増改築を行い、その壁面をティエポロのフレスコ画が華麗に彩った。



広報用画像 01

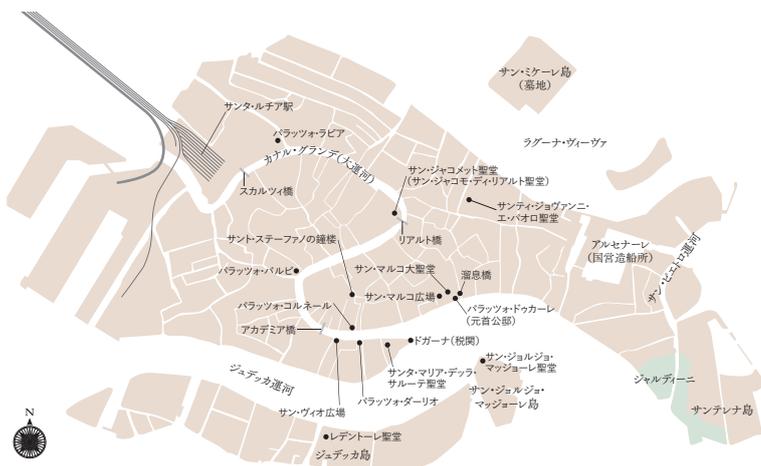
ネーデルラントの画家

《ラグーナから見たヴェネツィア全景》

1580-1600年頃 油彩/カンヴァス 66.0 × 193.0 cm

クライスト・チャーチ絵画館、オックスフォード

By permission of the Governing Body of Christ Church, Oxford



広報用画像 02

ジョヴァンニ・バッティスタ・ティエポロ

《アントニウスとクレオパトラの出会い》

1747年頃 油彩/カンヴァス 66.8 × 38.4 cm スコットランド国立美術館

© National Galleries of Scotland

ヴェネツィアの新興貴族ラビア家の邸館パラッツォ・ラビアの大広間装飾画のためのモデッロ(油彩下絵)。甲冑姿のアントニウスが、豪華なドレスに身を包んだクレオパトラの手を取り接吻している。澄み切った空を背にした遠景には船のマストと白い帆が見え、右端には逆光の中にハウンド犬と黒人の少年の姿。賑やかな人々の声が今にも聞こえてきそうである。



Chapter 2

カナレットのヴェドゥータ

Canaletto's Vedute

18世紀、ジョゼフ・スミスをはじめとする英国人パトロンに恵まれたカナレットの作品は、ヴェネツィアを訪れた英国のグランド・ツアー客にとりわけ人気を博し、旅の記念としてこぞって求められた。第2章では主に英国所蔵の作品からカナレットの業績をご紹介します。

カナレットがヴェドゥータを描き始めたのは1719年頃からとされ、当初は光と影の効果を重視した雰囲気描写が特徴的であった。それが次第に、すっきりと澄んだ空に、定型的な水の波紋、定規を用いて堅固に描かれた建物といった画風が定着していく。画面のあちらこちらに様々な仕草の人物が描きこまれるのもその特徴である。ヴェネツィアに生まれヴェネツィアに没したカナレットの描く、整然とした街並み、輝く水面、華やかな祝祭の情景は、同地の典型的イメージとして定着するほど絶大な人気を博した。

広報用画像 03

カナレット

《サン・ヴィオ広場から見たカナル・グランデ》

1730年以降 油彩/カンヴァス 65.0 × 83.8 cm

スコットランド国立美術館

© National Galleries of Scotland

海からカナル・グランデ(大運河)を500メートルほど遡った場所にある広場から、海側方向を振り返った情景である。画面右手前がサン・ヴィオ広場、隣接するパラッツォ・バルバリゴの向こうに見える大きな円蓋はサンタ・マリア・デッラ・サルデーテ聖堂。実際にこの場所に視点を定めても、本作のような眺めは得られないが、カナレットは付近の名所を一望できるよう、複数の眺めを組み合わせている。この眺めは人気があり、1720年代から30年代にかけて、類似した構図を何点も描いている。



ヴェドゥータ(景観画)とは

遠近法を用い、主として都市の景観を精密に描いた絵画。名所旧跡を正確に描き出したヴェドゥータは、旅の記念品として、グランド・ツアーでやってきた英国人貴族をはじめとする外国人旅行者に人気を博し、ヴェネツィアやローマで18世紀に発展した。

広報用画像 04

カナレット

《カナル・グランデのレガッタ》

1730-1739年頃 油彩/カンヴァス 149.8 × 218.4 cm

ボウズ美術館、ダラム

The Bowes Museum, Barnard Castle, Co. Durham, England

ヴェネツィアを彩る祭りの一つであるレガッタは、カナル・グランデを舞台に行われるボートレース。時に高名な賓客を迎えるためにも開催された。ひと際華やかな2艘の舟には白と青のユニフォーム姿の漕ぎ手たち。画面奥へとびる運河沿いには見物の小舟が並んでいる。バルコニーに見物人が顔をのぞかせる左手前のパラッツォ・バルビ(バルビ宮)には、カナレットのパトロン、ジョゼフ・スミスが住んでおり、特等席からの眺めを楽しんだに違いない。





広報用画像 05

カナレット

《サン・マルコ広場》

1732-1733年頃 油彩/カンヴァス 61.0×96.5 cm

東京富士美術館

©東京富士美術館イメージアークイブ/DNPartcom

共和国時代以来、政治・宗教・文化の中心であったサン・マルコ広場。左手にはサン・マルコ大聖堂とその奥にパラッツォ・ドゥカーレ（元首公邸）、中央にはそびえ立つ鐘楼と、それに連なるプロクラティエ・ヌオーヴェ（新市庁舎）。画面右端には、共和国崩壊時にナポレオンによって取り壊され、現在はその姿を見ることができないサン・ジェミニャーノ聖堂も確認できる。超広角レンズをもってしても不可能と思われる眺めを1枚の画面に収めた、カナレットの画面構成の手腕が発揮された1点。

グランド・ツアーとは

貴族の子弟が教育の仕上げとして数か月から数年をかけて文化の中心地を巡った周遊旅行で、18世紀後半の英国でその最盛期を迎えた。とくに英国人貴族の場合、たいいてい目的地はフランスかイタリアであり、ヴェネツィアは人気の旅先であった。

広報用画像 06

カナレット

《昇天祭、モーロ河岸に戻るプチントーロ》

1738-1742年頃 油彩/カンヴァス 106.5×106.5 cm

レスター伯爵およびホウカム・エステート管理委員会、ノーフォーク

The Earl of Leicester and the Trustees of the Holkham Estate





広報用画像 07
 カナレット
 《ロンドン、ラネラーのロトンダ内部》
 1751年頃 油彩/カンヴァス 51.0 × 76.0 cm
 コンプトン・ヴァーニー、ウォリックシャー
 © Compton Verney / Bridgeman Images

1742年にロンドン市内に開園した遊興施設「ラネラー」の目玉であったロトンダの内部を描く。直径約46メートルの室内は、左端に見える演奏席のほか、52のボックス席が取り囲む。主な出し物は音楽で、幼い日のモーツァルトもここで演奏したという。約10年間を過ごした英国での一コマを、ヴェネツィア時代のヴェドゥータで培われた緻密な描写を用いて描き出した。



広報用画像 08
 カナレット
 《昇天祭、モーロ河岸のプチントーロ》
 1760年 油彩/カンヴァス 58.3 × 101.8 cm ダリッジ美術館、ロンドン
 Dulwich Picture Gallery, London

キリスト昇天祭はヴェネツィアの祝祭の中でも「海とヴェネツィアの結婚式」が行われる重要なもので、ドージェ（元首）はプチントーロという御座船でアドリア海に出、「海よ、汝と結婚する」と唱えながら金の指輪を海に投げ入れる儀式を行った。ここではプチントーロや周辺のゴンドラは光の粒に取り巻かれたように明るい色点で描き出され、光がきらめく華麗な祝祭場面があらわされている。

第3章では、版画や素描を通してカナレットの創造の過程をたどる。見本帳としての性格を有した『ヴェネツィアのカナル・グランデ(大運河)の景観』は、カナレットの原画を基に彫版された作品集であり、カナレット作品を英国人顧客に仲介したパトロン、ジョゼフ・スミスの出資により刊行されたもの。一方でカナレット自らが彫版も手掛けた版画作品は、職人的精緻さの前者に比して自由な筆致が光る。カナレット自身のメモが書き込まれた準備素描や、それ自体で完結した入念な素描には、それぞれ意図の異なる画家の手の跡が見える。また、カメラ・オブスキュラを用いた追真的描写は当時の人々を魅了したが、本章ではこの光学機器もご紹介し、カナレットの創作の秘密に迫る。

広報用画像 09

カナレット

《ドーロ風景》

1744年以降に刊行 エッチング/紙 29.8 × 42.8 cm 第3ステート
スコットランド国立美術館
© National Galleries of Scotland



広報用画像 10

カナレット

《サン・マルコ広場でのコメディア・デラルテの上演》

1755–1757年? ペン、インク、淡彩/紙 20.5 × 31.7 cm
ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館、ロンドン
© Victoria and Albert Museum, London.

仮面を使った即興演劇、コメディア・デラルテの仮設舞台がサン・マルコ広場に設置されており、その背後には鐘楼が見える。舞台の右手側にはプロクラティエ・ヌオーヴェ(新市庁舎)、この1階の柱廊や室内に客席が並んでいた。柱廊から突き出しているテントは、今日も営業しているカフェ・フロリアンであろう。ペンによる精密な描写に淡彩を施し、日射しを浴びた舞台の情景が巧みに演出されている。



カナレットの生涯

- 1697 10月17日または18日、ヴェネツィアに生まれる。
- 1716 父ベルナルドと兄クリストフオロとともに、サンタンジェロ劇場とサン・カッシアーノ劇場の舞台デザインに携わる。
- 1719 父に伴い、スカルラッチェのオペラの舞台デザインのためローマへ。
- 1720 ヴェネツィアに戻る。画家組合に登録される。
1720年代、ジョゼフ・スミスと出会う。
- 1725 ルッカ出身の商人ステーファノ・コンティの注文により、4点のヴェドゥータを制作。
- 1730 スミスから、サミュエル・ヒルのための絵画の注文を受ける。
- 1732 ペッドフォード公のために24点のヴェドゥータの制作を開始。

- 1735 スミス所蔵のカナレット作品14点に基づき、版画集『ヴェネツィアのカナル・グランデの景観』が出版される。
- 1740年代 1740年に勃発したオーストリア継承戦争の影響により、グランド・ツアー客が激減。この頃より、版画制作に着手。
- 1746 ロンドンに到着。
- 1747 リッチモンド公のために制作。
- 1755 ヴェネツィアに帰国。
- 1762 スミス、カナレット作品を多数含む自身のコレクションを英国王ジョージ3世に売却。
- 1763 ヴェネツィアの絵画・彫刻アカデミー会員となる。
- 1768 4月20日、71歳で高熱により没。サン・リオ聖堂に埋葬される。

同時代の画家たち、後継者たち——カナレットに連なる系譜の展開

Canaletto's Contemporaries and Successors – The Artistic Genealogy from Canaletto

第4章では、カナレットの影響を受けた18世紀のヴェネツィアの画家たちと英国の後継者たちの作品をご紹介します。同時代のマリエスキやグアルディらの作品は、グランド・ツアーでヴェネツィアを訪れた人々によって購入され、高い人気を得た。地誌的に正確に描かれたヴェドゥータ、想像力を駆使し構成された架空の景観画カプリッチョ（綺想画）、いずれもカナレットの影響のもと異なるアプローチによって数多の作品が制作されていく。カナレットの甥であるペロットはヴェネツィア国外で各都市のヴェドゥータを数多く制作し、このジャンルを広くヨーロッパに普及させた。また、カナレットの約10年間におよぶ英国滞在によって生まれた英国在住画家たちによるヴェドゥータは、その影響力の大きさと同時にカナレットの独自性をも浮き彫りにするものである。



広報用画像 11

ベルナルド・ペロット

《ルッカ、サン・マルティーノ広場》

1742-1746年 油彩/カンヴァス 50.8×72.0 cm ヨーク・ミュージアム・トラスト(ヨーク美術館)
York Museums Trust (York Art Gallery). Presented by F.D.Lycett Green through The Art Fund, 1955.

トスカナ州北西部の街ルッカのサン・マルティーノ大聖堂と広場の景観が、整然とした空間に巧みにモチーフが配された、洗練された構図で捉えられている。1742年、20歳のペロットはローマ旅行に出かけ、ルッカに立ち寄った。本作はヴェネツィア帰国後に現地スケッチを元にして仕上げられたと考えられる。



広報用画像 12

フランチェスコ・グアルディ

《小さな広場と建物のあるカプリッチョ》

1759年 油彩/カンヴァス 35.5×52.0 cm 東京富士美術館
©東京富士美術館イメージアーカイブ/DNPartcom



広報用画像 13

ウィリアム・マーロー

《カプリッチョ：セント・ポール大聖堂とヴェネツィアの運河》

1795年頃? 油彩/カンヴァス 129.5×104.1 cm テート
Photo: Tate

作品名のとおり、ヴェネツィアの運河の奥に、ロンドンのセント・ポール大聖堂の堂々たる姿を組み合わせたカプリッチョ。異なる土地のランドマークを大胆に組み合わせ、虚構の大空間を創造している。

カプリッチョ（綺想画）とは

イタリア語で綺想や気まぐれを意味し、現実の正確な景観描写から離れて、実在するものや空想上のものを自在に組み合わせ構成された架空の景観画。カナレットは古代遺跡や虚構の建物、あるいは実在する建物の現実にはあり得ない組み合わせなどを描き出している。

最終章では、風景画の世紀とも言える19世紀の英仏の画家たちに焦点を当て、カナレット以後のヴェネツィアの表象の変遷をたどる。カナレットが定着させたヴェネツィアの典型的な「絵になる」イメージは19世紀後半になっても描かれ続けたが、一方で風俗画的要素や、大気や光に対する感覚などが画面に現れ始めた。同時にロマン主義的思潮を背景に裏町や狭い水路などヴェネツィアの「裏」の顔を切り取る画家も登場する。また、印象派世代の画家たちが描いた画面には、水の都が保持する幻想的なイメージが増幅されている様を見て取ることができるだろう。画家たちの都市景観に対する地誌的関心は次第に薄れ、近代的感觉で新たなヴェネツィア像が19世紀を通じて生み出されていった。



広報用画像 14

ウィリアム・エティ

《溜息橋》

1833-1835年 油彩/カンヴァス 80.0 × 50.8 cm
 ヨーク・ミュージアム・トラスト(ヨーク美術館)
 York Museums Trust (York Art Gallery)

運河を挟んで建つパラッツォ・ドゥカーレ(元首公邸)とパラッツォ・デッレ・プリジオーニ(牢獄)を、上層階で繋いでいるのが溜息橋である。牢獄の一階、水面と同じ高さを開いた戸口から、処刑された囚人と思しき裸の人物がひっそり運び出されようとしている。エティはヴェネツィアの歴史的建造物をロマン主義的でドラマチックな主題と構図で描き出している。

広報用画像 16

クロード・モネ

《パラッツォ・ダーリオ、ヴェネツィア》

1908年 油彩/カンヴァス 92.3 × 73.2 cm ウェールズ国立美術館、カーディフ
 © Amgueddfa Cymru - Museum Wales

1908年に初めてヴェネツィアを訪れたモネは、カナル・グランデ沿いの眺めを37点の連作に残した。本作では、連なるアーチと円形窓をもつ邸宅が、伝統的ヴェドゥータが示す典型的眺めから大きく離れて、水・光・大気で構成されている。 gondolaの細長いシルエットを境に、大胆にトリミングされた建物と水面で二分割された構図が示す平面性への志向は、晩年の〈睡蓮〉連作にも見出せる。



広報用画像 15

ウジェーヌ・ブーダン

《カナル・グランデ、ヴェネツィア》

1895年 油彩/カンヴァス 51.0 × 74.5 cm 東京富士美術館
 © 東京富士美術館イメージアーカイブ/DNPartcom

サンタ・マリア・デッラ・サルデーテ聖堂やサン・マルコ広場の鐘楼などとともに、一目でヴェネツィアだとわかる眺めを描くが、素早く軽快な筆致からは、画家の関心が大気や光の微妙な変化を捉えることにあることがわかる。



会期中のイベント ※いずれも要予約

学芸員のギャラリートーク

10月18日(金)、10月25日(金) 18:30-19:10

参加費 1,800円(観覧料込・税込)

本展担当学芸員が展覧会の見どころや出品作品について詳しく解説を行います。トーク前後には、ご自分のペースでご鑑賞いただける「自由鑑賞時間」も設けています(各回定員20名)

10月1日(火)10:00より美術館ホームページにて申込受付開始

- ・貸し切りではありません。夜間開館日につき他のご来場者もいらっしゃいます
- ・ご招待券、ご招待状、年間パスポート、割引等は適用できません

ギャラリー★で★トーク・アート

11月25日(月) 14:00-16:00

参加費 1,800円(観覧料込・税込)

休館日に貸し切りの美術館で、ボランティアガイドと話しをしてみませんか? 作品解説を聞くのではなく、参加者が作品を見て、感じて、思うことを話しながら楽しむ参加型の作品鑑賞会です(定員30名)

10月12日(土)10:00より美術館ホームページにて申込受付開始

- ・ご招待券、ご招待状、年間パスポート、割引等は適用できません

*各イベントの詳細や申込方法は当館ホームページで随時公開いたします

収蔵品 コーナー

フィンセント・ファン・ゴッホ《ひまわり》

展覧会名: **カナレットとヴェネツィアの輝き**
Canaletto and the Splendour of Venice

会期: 2024.10.12(土) — 12.28(土)

会場: SOMPO美術館 〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1

休館日: 月曜日(ただし10/14、11/4は開館)

開館時間: 10:00-18:00(金曜日は20:00まで) ※最終入場は閉館30分前まで

観覧料(税込): 一般/事前購入券1,700円、当日券1,800円
大学生/事前購入券1,100円、当日券1,200円
高校生以下無料

身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者保健福祉手帳を提示のご本人とその介助者1名は無料、
被爆者健康手帳を提示の方はご本人のみ無料

※事前購入券は8月7日(水) 10:00より販売開始、公式電子チケット「アソビュー!」、イープラス、
ローソンチケット(Lコード:33414)、チケットぴあ(Pコード:994-930)などでお買い求めいただけます
※手数料がかかる場合があります

主催: SOMPO美術館、毎日新聞社、スコットランド国立美術館

特別協賛: SOMPOホールディングス

協賛: DNP大日本印刷

特別協力: 損保ジャパン

協力: 日本航空、日本貨物航空、箱根ガラスの森美術館、ITAエアウェイズ

後援: 駐日イタリア大使館、ブリティッシュ・カウンシル、新宿区、TOKYO MX、J-WAVE

ホームページ: <https://www.sompo-museum.org/>

お問合せ: 050-5541-8600(ハローダイヤル)

アクセス: 新宿駅西口より徒歩5分

本プレスリリースおよび「カナレットとヴェネツィアの輝き」展についてのお問合せ先

「カナレットとヴェネツィアの輝き」広報事務局(共同PR内) 担当: 三井

e-mail canaletto-pr@kyodo-pr.co.jp TEL. 03-6264-2382

〒104-0045 東京都中央区築地1-13-1 銀座松竹スクエア10階



SOMPO美術館
Sompo Museum of Art

今後の状況により、本展の会期や内容の変更、または臨時休館する可能性があります
最新情報は美術館ホームページ等でご確認をお願いします